

# 名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)

4 質の高い教育を  
みんなに



# NCUサステナビリティ・ワークショップ2022を開催



<p>活動の概要</p>	<p>2022年11月3日にNCUサステナビリティ・ワークショップ2022「食から考える持続可能な都市名古屋」(名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我幸代研究室主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を開催しました。食は、私たちの生活に欠かすことができません。昨年度、テーマに掲げた防災をはじめ、SDGsのゴールにもある貧困や飢餓、健康、エネルギー、気候変動、生物多様性にも深く関わっています。また、その生産・消費・廃棄に目をむければ、経済や産業構造にも関連することは想像に難くありません。さらにそれには、各地域の文化が反映されています。たとえば、国際理解教育において、食は3F (Food, Festival, Fashion) のひとつとして、文化交流に活用され、多文化共生においては重要な役割を担っています。</p> <p>しかしながら名古屋という都市社会において、生産活動にどう関わっているのか、消費・廃棄活動をサステナビリティの視点から考えられているのか、社会的公正に配慮しているのかと問われれば、多くの人は答えにつまるのではないのでしょうか。実際、私たちの食はグローバルにもまたローカルにも関連し、さまざまな要因でその循環やつながりが止まることもあり得ます。サステナビリティの視点から食の循環やつながりを改めて問い返し、生活者としてどのような行動をとれば、持続可能な食のあり様ににつながるのかを考える機会として、本ワークショップは開催されました。</p> <p>本ワークショップでは、食とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきことは何かを考えました。子ども・若者の視点から、何を問題としてあげ、それらにどのように取り組むことが求められるのかを考え、発表しました。その上で、SDGsのアイコンを街中でよく見掛けるようになった昨今のSDGs未来都市としての名古屋のあり様を考え、参加者全員で自らの足元から考えました。</p> <p><b>【開催日時・場所】</b> 2022年11月3日 午後1時半から3時半まで 名古屋市立大学滝子(山の畑)キャンパス1号館2階201教室他</p> <p><b>【スケジュール】</b> 午後1時30分から午後1時40分 開会の挨拶・趣旨説明 午後1時40分から午後1時45分 ワークショップの説明・各会場へ移動 午後1時45分から午後2時35分 高校生・大学生協働ワークショップ 午後2時40分から午後3時20分 全体会 午後3時20分から午後3時30分 開会の挨拶 (SDGsセンター長 薬学研究科教授 林秀敏)</p> <p><b>【参加校・ゼミ】</b> (高校生) 名古屋市立菊里高等学校 名古屋市立北高等学校 名古屋市立工芸高等学校 名古屋市立名東高等学校 (大学生) 名古屋市立大学看護学部地域保健看護学ゼミ 名古屋市立大学高等教育院サロングラス (AE: Raise Health/Environmental Awareness) 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科椎名ゼミ 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我ゼミ</p>
<p>参加者の声</p>	<p><b>【高校生】</b> 年齢(高校と大学)の壁、そして国の壁を越えて、自分一人では思いつかないような考えを知ることができました。短い時間の中で濃い内容を扱えたが、欲を言えばもう少しグループワークの時間が欲しかったです。今回、どの班からも「地産地消」というキーワードが出てきて、皆が共通して考えている問題だと実感しました。また、「食」というテーマの元で話し合われた今日ですが、これはSDGsの様々な課題に関係していること、そして世界中に注目されていて人間社会という大きなスケールで考えさせられるテーマであることが分かりました。(=食一つとっているんな事を考えられる。SDGsに関して視野が広がる。)このような貴重な機会を設けて頂き大変嬉しかったです。ありがとうございます。早速、今日家に帰ってから家族に共有し、学校でも発表できるので積極的に得たものを外へと広げていこうと思います。</p> <p><b>【高校生】</b> 高校の中では聞けないようなお話がたくさん聞くことができたし、食についての知識も深まりました。また今回の大学生の方や初対面の方とグループ活動していくなかで自分にしゃべる力だったり積極性だったりがあったらもっといろいろな人と交流できたのかなとも思いました。</p> <p><b>【大学生】</b> さまざまな分野の視点から食の問題や解決策について考えることができた。名古屋市立の高</p>

	<p>校の生徒さんとも交流することができ、高校生が地産地消や栄養不足の問題に着目した活動に積極的に取り組んでいることを知った。「持続可能な都市名古屋」になるためには、人々が地域の特色やSDGsへの取り組みに目を向け、問題意識を持たなければならないと感じた。「食」という我々の生活に欠かせないことから問題を考えていくことで、一人ひとりが身近にあふれている改善点を見つけやすいと思った。</p> <p>【大学生】「食」というテーマひとつで健康について、多文化について、コンポストについて、伝統野菜についてなどたくさんのテーマに触れられた点がとてもおもしろかったです。一件共通点の見えないたくさんのテーマでも、「たしかにつながるかも!!」「これも同じだ!」とあとから見えてくる共通のポイントがあったこともみんなで楽しむことができました。ふだん触れることのない分野やフレッシュな高校生の取り組みに触れられる良い機会でした。</p>
活動の時期	2022年11月



# ようこそ！名市大へ！～新規採用研修医へ熱いメッセージが寄せられました～



活動の概要	<p>2022年4月8日、初期研修医オリエンテーションの総括としてシンポジウムを開催しました。大ホールに出席した名市大病院の研修医約40名の他に、東部・西部医療センターの研修医や学生を含め約100名がオンラインで参加しました。</p> <p>第1部はジェネレーション・フォーラムで、卒後15年目前後の新進気鋭の先生方が自らの歩んできた道を語りながら、研修医たちに進むべき道の決め方をアドバイスしました。</p> <p>第2部はフェアウェル・フォーラムで、郡健二郎理事長、浅井清文学長、高橋智医学研究科長、間瀬光人附属病院長から人生の岐路に立ったときの経験談が語られました。</p> <p>なごやかな中にも心に響くメッセージを頂き、研修医たちは夢をもって4月からの研修生活を歩み始めました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年4月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.44</a>

## PICo project 2022 本格始動！



活動の概要	<p>本学を中心とした医療系学生と愛知県、愛知県周辺の医療者・教育施設が相互に意見を出し合い、医療系学生に新しい教育プログラムを提供し、新しい学びの場を作り出すためのプロジェクトである「PICo project (※)」が2022年度もスタートします。</p> <p>このプロジェクトは、医学生の学びたいという意欲に対して、後進により良い医療を提供してほしいという医療者の熱意で2021年度より発足しました。</p> <p>2022年度は医学生に加え、薬学部生、看護学部生を対象としたプログラムも加わり、医療系学生全体に向けたより魅力あるPICo projectに進化しました。</p> <p>詳細は <a href="#">PICo projectのWEBサイト</a>をご確認ください。</p> <p>(※) PICo: Passion = 学ぶ側・教える側の熱意、Innovation = 既存の枠にとらわれない革新、Co-Creation = 学生・指導の先生方・施設による“共創”</p>
活動の時期	2022年度
関連URL	<a href="#">PICo project WEBサイト</a>



# カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションに参加



活動の概要	<p>本学は、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加しました。</p> <p>これは、2021年7月に文部科学省、経済産業省および環境省が先導し、カーボン・ニュートラルに向けた積極的な取り組みを行っている、または取り組みの強化を検討する大学等による情報共有や発信等の場として設立されたものです。</p> <p>5つあるワーキンググループのうち、本学は「人材育成ワーキンググループ」に登録しました。</p> <p>全国の大学等と連携しながら、引き続きカーボンニュートラル達成に向けた取り組みを展開してまいります。</p>
活動の時期	2022年8月以降
関連URL	<a href="#">カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション</a>

## 中日SDGsフェアに参加



活動の概要	<p>本学は、2022年8月20日（土）にウイंकあいちで開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）に参加しました。このフェアは、小学生・中学生等の子どもたちや市民がSDGsについて身近に感じられるよう企画されたものです。当日は、およそ600名の方が来場しました。</p> <p>ブースでは、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。ブースを訪れた来場者の方々は展示内容を熱心にご覧になっていました。</p> <p>また当日は、大学生が「SDGsアンバサダー」となって企業・団体のSDGsの取り組みを取材し、その内容についてプレゼンテーションを行う企画も開催されました。本学からは有志が集まった経済学部1年生と人文社会学部1年生の合同チームが参加し、ナゴヤハウジングセンター様のSDGsの取り組みについて取材内容をプレゼンしました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	<a href="#">中日SDGsフェア</a>



ブースの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

## 書籍「名市大ブックス」シリーズ 第11・12巻を発売



活動の概要	<p>2022年8月23日、2020年10月より発行を続けている本学教員ら執筆の書籍シリーズ「名市大ブックス」の第11巻、第12巻を出版・発売しました。</p> <p>第11巻「いきいき心臓とはつらつ生活」は、日本人の死因上位でもある心臓の疾患や血管病に焦点を当て、最新の研究や手術などの治療法について、執筆者の各分野の専門知識をわかりやすく解説しています。第12巻「女性の新しいライフスタイルと最新医療」は、人生における女性特有の身体的・精神的な疾患を取り上げ、正しい知識と心構えを身につけることで豊かで健康な人生を送ることを推進するための1冊です。</p> <p>書店やインターネットからお買い求めいただけます。ぜひご一読ください。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.45</a>

## 春の薬用植物園市民公開講座を開催しました



活動の概要	<p>2022年5月14日に春の薬用植物園市民公開講座を開催しました。本講座はこれまで金曜日と土曜日の午前中に開催していましたが、より参加いただきやすくなるよう、今回は土曜日の午前・午後での2回の開催といたしました。おかげさまで定員以上の申し込みをいただくことができ、延べ162名の参加者が通常は一般開放していない薬用植物園の中で色とりどりの植物について、楽しみながら学びました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年5月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.45</a>

## 中学生AIプログラミング教室を開催しました



活動の概要	<p>2022年8月24日、25日の2日間にわたり、中学生を対象としたプログラミング教室を開催しました。名古屋少年少女発明クラブとの共催で開催し、理学研究科の渡邊教授の指導のもと、参加者はプログラミング言語Python（パイソン）を用いた基礎的なプログラミングから機械学習を用いた手書き文字の認識まで体験学習し、関心を深めました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.45</a>

## ようこそ大学へ！プロジェクトを開催しました



活動の概要	<p>2022年8月8日、名古屋市内の児童養護施設などで生活する子どもたちを大学へ招いて学習支援や進学への動機づけを目的とした大学体験企画「ようこそ大学へ！プロジェクト」を開催しました。当日は感染症対策のため午前・午後の二部制として、小学生から高校生の子どもたち合計78名が参加し、ボランティアの学生は、人文社会学部の学生102名が参加しました。また今年は、子どもたちが楽しみにしている学食体験を再開することができました。子どもたちはボランティア学生とペアになり、「一日名市大生」として実験体験や研究室訪問等を行いました。名古屋市からの依頼で始まった本イベントも今年で10年目を迎え、ボランティアの学生たち協力のもと、今年も参加した子どもたちの楽しそうな声をきくことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.45</a>

# 「SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」実施報告



<p>活動の概要</p>	<p>株式会社愛知銀行との連携事業として、SDGsをテーマにした講座を下記のとおり実施しました。</p> <p>タイトル SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～          日時 2022年12月10日 午後1時30分から午後4時30分          場所 滝子（山の畑）キャンパス NCUホール          受講者数 20名（愛知県内の小学3年生から6年生）          担当教員 人間文化研究科 曾我幸代 准教授          サポーター 大学生5名、大学院生1名、愛知銀行行員4名</p> <p>午後1時30分から午後1時45分 挨拶（愛知銀行）          午後1時45分から午後2時10分 SDGsの説明（曾我准教授）          午後2時10分から午後2時20分 今日の活動の説明（名古屋市立大学人文社会学部生）          午後2時20分から午後3時10分 キャンパス内外でのフィールドワーク          午後3時10分から午後3時20分 会場にもどる          午後3時20分から午後4時00分 データの整理、報告内容の検討          午後4時00分から午後4時30分 グループごとに発表（1グループ5分程度）&amp; 講評</p> <p>冒頭で愛知銀行からご挨拶を頂いた後、参加者らは座学でSDGsとは何か、なぜ今必要とされているのかを学びました。本企画に携わった人文社会学部生から、フィールドワーク中の活動について説明がなされ、また注意事項の確認がなされたあとで、グループごとに名古屋市立大学滝子キャンパス内外を歩きました。</p> <p>参加者はサポーターである大学生や愛知銀行の行員らとともに滝子キャンパス内外を散策し、SDGsの17のゴールに関わることを探しました。散策中に見つけた内容を「SDGs探検ノート」に書き込みながら、制限時間いっぱいまで外での活動を楽しんだ後、会場に戻り、フィールドワークで探してきたSDGsに関わることを整理しました。それをレーダーチャートに書き込むと、それぞれの形が浮かびます。そのあとの報告では、レーダーチャートを見せながら、どのようなSDGsに関わることを探し、気づいたことは何かを全体に発表しました。「意識することが大事」「ゴミ拾いをしたいと思いました」「グループの人たちのそれぞれの形が違っていました」などの感想が共有されました。</p> <p>SDGsは小学校で学びますが、自らとは関係のないところで起きている問題、遠いところの問題と認識している人も少なくありません。しかし、SDGsに関わることは私たちが意識していないだけで、身のまわりに数多くあります。そうしたことに気づき、SDGsの大切さを知るための機会が今回の講座でした。何よりもサポーターとして関わってくださった愛知銀行の行員のみなさんや付き添いで同行された保護者のみなさんにも、子どもたちの活動や言葉からはっとさせられたり、学びがあったりしたことが大変うれしかったです。私たちの生活の身近なところであることを探して、実践すること、そうした積み重ねによりSDGsの達成に少しでも関わられることを願っております。</p> <p>参加してくださった小学生のみなさん、サポートしてくださった大学生、行員のみなさん、ありがとうございました。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/science_news/12120946/">https://www.nagoya-cu.ac.jp/science_news/12120946/</a></p>



# Make the Future Bright through Education (本学SDGs アンバサダーの活動紹介)



活動の概要	<p>【本学SDGsアンバサダーである学生グループ「NCU Time to Act Now」の活動紹介】</p> <p>①12月3日、私たちは港区の地域日本語教室「アウラ・ド・キューバ」のボランティアに参加しました。これは、「AE Raise Health / Environmental Awareness」という授業の一環で、SDGsに貢献するボランティアを行うというプロジェクトのもとで行われました。外国人労働者が多く滞在する港区の地域で開かれている日本語教室に講師として参加し、外国人の生徒の方に日本語の文法や単語、発音を教える一方で、コミュニケーションも多くなり、日本や海外の教育の現状について学びました。外国人の方に直接教育の現状について話を聞ける貴重な機会だったので、非常にいい経験になりました。</p> <p>②12月15日、私たちは「ECO Trading」という不用品を回収し、発展途上国に寄付している団体に文房具を郵送しました。この文房具は、ECO Tradingで仕分けされ、海外のリサイクルショップに送られ、現地で活用されます。貧困や技術不足でまともな勉強道具がなく十分に教育が受けられていない発展途上国の子どもたちに、微力ながら貢献できたのではないかと思います。</p>
活動の時期	September 2022 – January 2023
関連URL	<a href="#">NCU Time to Act Now Instagram account</a>



# 名古屋市立萩山中学校、矢田中学校の生徒が本学人文社会学部曾我研究室を訪問



<p>活動の概要</p>	<p>2023年1月26日木曜日に名古屋市立萩山中学校から2年生6名、2023年1月27日金曜日に名古屋市立矢田中学校から2年生5名が本学人文社会学部心理教育学科曾我研究室を訪問しました。SDGsの学びが中学校でも始まるようになり、探求学習の一環としての訪問でした。</p> <p>26日に訪問した萩山中学校の6名は、はじめに自己紹介をした後で、これまでの自身の学びである「フェアトレード」についてパワーポイントを使って発表しました。発表を聞いて、いくつかの質疑応答をした後で、SDGsやESDについて事前に受けていた中学生からの質問に応えました。訪問を終えた中学生からは、後日丁寧な手紙が送られてきました。手紙には、訪問を通して学んだことがそれぞれ書かれていました。</p> <p>27日に訪問した矢田中学校の5名は、「途上国と先進国の教育事情の違い」に関して事前に提出していた項目をもとに質問し、その応答から世界の子どもの教育環境についての理解を進めてきました。矢田中学校からの依頼は、本学SDGsセンターへの問い合わせから始まりました。連絡をくださったキャリアコーディネーターの方から、SDGsに関連する諸活動をしている本学大学生とぜひ交流させたいという強い思いのもと実現しました。当日、曾我准教授の他に、昨年度からSDGsに関する取り組みをしていたゼミ生2名（関連URL①）が参加し、その取り組み（関連URL②）を話しました。また、SDGsセンターから林秀敏センター長も同席しました。後日、訪問を通して学んだことが書かれた丁寧な手紙が届けられました。</p> <p>SDGsに関連する学びは各職種で実施されていることから、こうした校種間交流が今後も増えていくことが予想されます。今回、中学生は大学生や大学教員と交流することで多くを学んでいました。同様に、大学側も中学生を通して中学校でどのような学びをしているのかを知る機会となりました。こうした学びの機会が創出されることも、SDGsに関する学びの一つの成果とも言えるかもしれません。今後こうした機会を通して、学びの形態が広がっていくことを期待したいと思います。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2023年1月</p>
<p>関連URL</p>	<p>① <a href="#">本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！</a></p> <p>② <a href="#">「SDGs探検隊～街歩きで見つける私たちのサステナビリティ～」の実施報告</a></p>



萩山中学校からの訪問



矢田中学校からの訪問

# 「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催



活動の概要	<p>2023年2月、本学は「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催しました。これは、環境省採択事業「教育機関と連携した地域再エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」の一環として、経済学研究科の鵜飼教授、徳光助手とSDGsセンターが連携して開催したものです。経済学部及び人文社会学部の学生9名が参加し、再生可能エネルギーの領域で先進的な取り組みを行っている東海地区の企業や地域への視察・フィールドワーク等を行いました。</p> <p>3月には、同じ環境省主催研修に参加している全国15大学の学生との全体交流会が開催され、参加した学生から今回の研修の成果について報告しました。</p>
スケジュール	<p>Day1 (2月7日) :【講義】株式会社ウェストボックス                  Day2 (2月8日) :【視察&amp;講義】おひさま自然エネルギー株式会社                  Day3 (2月14日) :【視察&amp;講義】みなとアクルス、名古屋環境局                  Day4 (2月17日) :【グループワーク】中間振り返り                  Day5 (2月20日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト                  Day6 (2月22日) :【フィールドワーク】錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト                  Day7 (2月24日) :【グループワーク】最終振り返り</p>
活動の時期	2023年2月



Day2 おひさま自然エネルギー株式会社いなば営農発電所視察



Day3 みなとアクルス視察



Day6 錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクトの方々とのディスカッション



Day7 最終振り返りグループワーク

## SDGs IDEA 研究会を開催



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2022」を名古屋市と共催しています。この活動の一環として、2022年12月14日に、SDGs IDEA 研究会を開催しました。</p> <p>当日は、SDGs IDEA FORUM 2022にエントリーしている名古屋市内の学生36名が参加しました。賛同企業による企業紹介、SDGs IDEA FORUM 2021最優秀賞受賞チーム（南山大学 ロバートゼミ「フードロス×教育」）によるプレゼンテーションの後、参加学生同士の交流会が行われ、1月15日提出期限のアイデアシート作成に向けた情報交換が行われました。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2022でアイデアを募集する4つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ジェンダー平等を実現する社会づくり</li> <li>●地域コミュニティが活性化するまちづくり</li> <li>●サステナブルな観光都市名古屋の実現</li> <li>●脱炭素社会をめざすまちづくり</li> </ul>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">SDGs IDEA FORUM 2022 WEBサイト</a></p>

